『広報かがみの』200号を迎えて

－広報のあゆみ－

平成の大合併により発足した新「鏡野町」の広報として、平成17年（2005）３月に創刊した『広報かがみの』は、今月号で第２００号を迎えました。ここで改めて町の広報の歴史を振り返ってみましょう。

旧鏡野町域では、昭和26年（1951）８月に当時の芳野・大野・香々美南・小田・中谷の５か村で発行した『報道苫西』を創刊号とします。これは、当時急速に進んでいた町村合併問題にあたり、近隣の村同士の情報交換の場として活用することを目的の第一にかかげ、「発刊のことば」の末尾には、隣接する田邑、香々美北、郷の各村にも参加を呼びかけています。そして、昭和27年11月に、香々美北村を加えて鏡野町が発足したことにより、同月発行の第四一号から『鏡野廣報』と名を変え、その後『広報かがみの』と改めました。

奥津地域の広報は、苫田・奥津・羽出の３か村が合併して奥津町が発足した翌年の昭和35年（1960）４月に『奥津の声』として創刊され、後には「広報おくつ」と改め４３９号まで発刊されました。発刊の言葉に書かれた日笠善一町長の新町奥津町建設にかける意気込みは、今読んでも胸を熱くさせられます。

上齋原地域では、大正14年（1925）に『岡山県苫田郡上齋原村報』第１号が刊行されていますが、昭和24年（1949）に11月に改めて『村報』として創刊されます。第６号まで手書きのガリ版印刷で作成され、他の町村の広報よりも手作り感が強いものになっていますが、第七号から『報道上齋』と名を変え、活版印刷で発行されています。

富地域は昭和26年２月に『報道登美』として創刊されました。第一面は創刊の言葉と共に「富村の古代文化を探る」というタイトルで、大きくスペースを割いて近年村内から出土した土器や石器を手掛かりに、富の古代史について述べられているところが興味深いです。

創刊当時の旧町村の広報は、いずれも農林業・畜産に関する記事に多く紙面を割いていることが特徴で、高度経済成長期以前の町内の人々の生活や関心の中心がどこにあったのかがよくわかります。

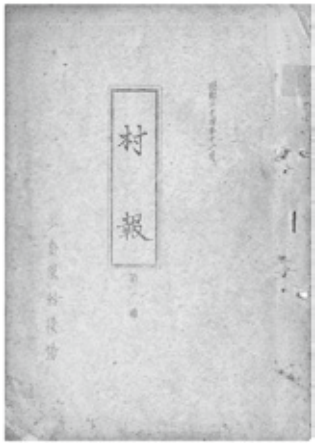
現在の広報も創刊号から見てみると、16年余りの様々な出来事を経て、旧町村単位での視点から、一つの町としてまとまっていく鏡野町の成長する姿が映し出されています。

『広報かがみの』は、これからも地域住民の皆さまへの情報提供の場としてだけではなく、町のあゆみを未来の人々へつなぐためにも、紙面を充実させていきたいと思っております。

『奥津の声』第１号

『報道苫西』第１号

『報道登美』第１号



『村報』第１号

『広報かがみの』第１号